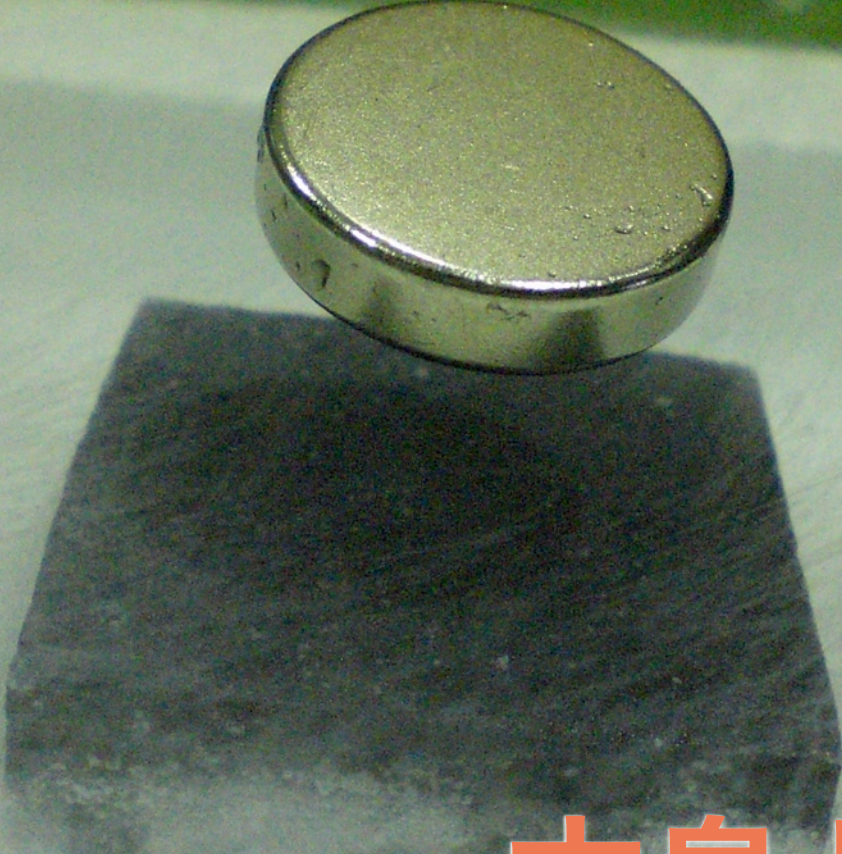



# HB-style



ENJOY! 研究ライフ!! 中島 陽祐

The 5th Korea-Japan  
Student Workshop 活動報告

2009 | Sep. | vol. 7

 光物性研究室



谷口研の熱い男

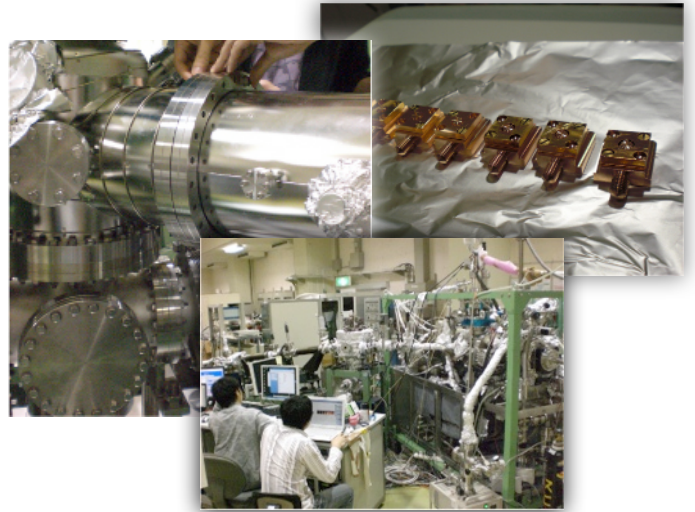
# ENJOY! 研究ライフ!!



揺るぎない決意と鋭い眼光で  
高温超伝導メカニズムの解明に迫る。

若手研究者

## 中島 陽祐



### 的を射る

学部生の4年間は弓道部に所属していました。学業そっこのけで弓を引いていたおかげか、2年生のときに、全日本選抜大会の西日本代表の一人に選ばれました。一生懸命に取り組んだ成果が実り、本当に嬉しかったです。弓道の醍醐味は、弓を放つ瞬間にあります。音を漏らさぬ静寂と張りつめた緊張感の中、引き絞った力を一気に解放して的を射抜く。矢が的中したときの爽快さは快感です。弓道では集中力と継続していく力を身につけることができました。現在では弓道で学んだことを学業にも活かし、研究内容や論文の核心を射抜くこと、自分の研究をアピールして相手の心を射抜くことを意識して勉強しています。

### 劈開にかける思い

僕は高温超伝導体の高い転移温度の謎や、電子が受ける相互作用の振る舞いなどを光電子分光を用いて解明することを目標にしています。実験では試料を真空中で「劈開」して清浄表面を得ますが、その瞬間は弓を放つ感覚です。劈開前の緊張感と心の静寂。スティックを握る手の感覚。集中力を高め、狙いを定め、振り下ろす。「的中」。的中しても実際に測定をしないと結果がわからない所は弓道と異なっています。しかし、質の高い劈開面を得られた時の爽快さと喜びは勝るとも劣らず、実験も弓道も楽しくて辞められません。今後もピュアな心で研究に取り組んで行こうと思います。

### 今後の自分

今後、博士課程に進学し今の研究を継続していくことを決めました。いばらの道だと認識しています。でも、研究をしているときは嫌なこともツライことも忘れて、がむしゃらに取り組んでいる自分がいます。知識がどんどん積み重なって行くのがわかりますし、高温超伝導体が見せる多彩な物性が僕を魅了してのめり込んで行くのがわかります。博士課程への進学を決意するには時間がかかりましたが、今の気持ちを大切にしていって、高温超伝導の謎の解明に貢献できたらいいなと考えています。後悔していません。いっぱい勉強して努力します。



# The 5th Korea-Japan Student Workshop

「科学への探究」が人種、国境、性別、あらゆる壁を打ち壊す助けとなった。

活動報告 古本一仁

## 日韓交流

9/10, 11 韓国、釜山大学にて The 5th Korea - Japan Student Workshop が開催された。この Workshop の目的は、日韓の学生が研究発表を行い、議論や様々なイベントを通じて交流を深めること。光物性研究室からは M2 内海、M1 黒田、古本、B4 の金が参加した。

## 攻め過ぎか？！

たった 30 分。韓国への物理的な距離は短い。「これがユーラシア大陸か！」と初海外の俺と黒田は大興奮。釜山大学、密陽キャンパスは広島大学以上に孤立した立地だったが立派な運動場や広場があり、学生達は活き活きとしていた。Workshop のオープニングで木村准教授は流暢な英語で研究紹介を行った。そう、発表は英語。初の口頭発表が英語で「攻め過ぎか？！」と思ったが、迷ってられない。今回の目的は「交流」。言葉の壁を打破するには酒も重要なツールだ。50 名もの

学生と先生で行われたパーティでは明日に発表が控えているにも関わらず深酒をし、友好を深めあった。

## 緊張、緊張、ど緊張！！

気づけば朝。いよいよ発表。10 分の発表に、質疑応答が 5 分。日本と韓国の学生が交互に発表していき、俺。緊張してないつもりだったが、ステージに立ち、辺りを見渡したら緊張が襲ってきた。冷たい汗を感じながらの発表。なかなか練習通りに言葉が出てこない。苦い記憶とともに初の口頭発表は終わった。英語を話す訓練をしなくては！と強く思う結果となった。

## 科学への探究

発表も無事終わり、充実した韓国の旅も終りである。黒田が Best Presentation Award を受賞した。今回の Workshop では韓国の学生の英語力の高さに驚き、研究に対する熱い思いを感じ良い刺激を受けた。また、親切で活発な韓国の学生に心を打たれた。来年、2010年には釜山国立大学の学生数名が広島大学を訪れ Workshop が行われる。彼らとは強く抱き合い涙し、「また来年、広島で！」と約束した。「科学への探究」はあらゆる壁を打ち壊す助けとなった。



M2 内海の発表



木村准教授 (中央)



盟友の黒田



# 2009年9月 光物性研究室カレンダー

## 8/30(日)～9/1(火) European Conference On Surface Science 26

8月30～9月1日にかけて、European Conference On Surface Science 26 (ECOSS 26) がイタリアのパルマで行われた。この会議では、金属や合金、半導体などの表面、酸化表面、表面の電子状態など、表面に関する様々なトピックが議論された。研究室からは、木村准教授とD2の上野哲郎とYe Maoが参加し、多くの研究者と議論を交わした。この会議でYeは、「Substrate effect on the morphology and electronic structure of the epitaxially grown graphene」の題目でBest Poster Awardを受賞した。研究成果の新しさと成果発表の積極性が高く評価された。



参考URL : <http://www.ecoss26.eu/>

## 9/3(木) 広島大学大学院理学研究科 一般入試合格発表

9/3(木)、大学院理学研究科の一般入試の合格発表があった。試験を受けたB4金聖憲、羽瀨隆文、宮原寛和は見事合格し、今後も光物性研究室で研究を行うことが決定した。

## 9/10(木), 11(金) The 5th Korea-Japan Student Workshop

9月10、11日、韓国・釜山にてThe 5th Korea-Japan Student Workshopが開催された。Workshopでは、日韓の学生がお互いの研究を発表し合い、議論と交流を交わす目的で毎年行われている。研究室からは、M2内海有希とM1黒田健太、古本一仁、B4金聖憲が英語での口頭発表を行った。この会議で黒田健太は、研究内容と発表姿勢が高く評価されBest Presentation Award of Japanese Studentsを受賞した。



## 9/25(金)～28(月) 日本物理学会 2009年秋季大会

日本物理学会秋季大会が熊本大学黒髪キャンパスで行われた。研究室からはD2のJiang Jin、Ye Mao、M2内海有希が参加し研究発表と意見交換をおこなった。

### 編集部からのお知らせ

#### スタッフ募集

HB-Style 企画・編集に参加していただける方を募集しています。

#### 企画の募集

取り上げてほしい企画、テーマを募集しています。気軽にお寄せください。

#### 今後の企画について

「液体Heの汲み出し」、「HiSOR散歩道」、「理学部D棟」などのトピックを考えています。

#### 発行予定について

毎月の発行を予定していますが、作者の都合により遅延、または休刊となる場合があります。ご了承ください。

企画・編集 : 安齋太陽

編集・取材協力 : 黒田健太、古本一仁

